ル事件既遂罪ト爲ル可キ等ヲ發見スルヿナシトセス是等ノ場合ニ於テハ時宜ニ依リ豫審ヲ要スルヲ以テ檢察官及ヒ被告人ヨリ此請求ヲ爲スヿヲ許ス

〔三百九十九〕公訴ニ付キ弁論全ク終結シタル時ハ私訴ノ弁論ニ取掛リ民事ノ關係人ヲシテ各陳述ヲ爲サシム

罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲シ且其報告書ヲ差出サシム可シ

第三百五十七條第一項ノ規則ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百九十八條　辯論終結ノ言渡アリタル時ハ檢察官法律適用ノ爲メ其意見ヲ陳述ス可シ　一三四、

被告人及ヒ辯護人ハ檢察官ノ意見其當ヲ得サルヿヲ辯論スルヲ得

第三百九十九條　前條ノ辯論ヲ終リタル後民事原告人ハ私訴ニ付キ其請求スル所ヲ陳述ス可シ被告人辯護人及ヒ民事擔當人ハ答弁

檢察官ハ民事ノ關係人ニ非サルヲ以テ止タ最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

私訴ニ付キ取調未タ充分ナラサル時ハ先ツ公訴ノ裁判ヲナシ後日私訴ヲ審理スルヿヲ得

〔四百一〕第二項原被ノ要償ト云フ即チ民事原告人ヨリ被告人ニ對シ要ムル所並ニ被告人ヨリ第十六條ニ從ヒ告訴人告發人又ハ民事原告人ニ對シ要ムル所ヲ云フ

ヲ爲スヿヲ得

檢察官ハ私訴ニ付キ其意見ヲ陳述ス可シ

裁判所ニ於テハ私訴ノ弁論ヲ延期スルヿヲ得但閉廳前之ヲ判決ス可シ　三〇六、

第四百條　被告事件重罪ニシテ且證憑充分ナル時ハ法律ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲ス可シ

又第二百二十四條第三以下ノ場合ニ於テハ免訴ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

第四百一條　犯罪ノ證憑充分ナラサル時ハ裁判所ニ於テ無罪ノ言渡ヲ爲シ且被告人ヲ放免ス可シ

又原被ノ要償ニ付キ第三百九十九條ノ規則

〔四百二〕本案ニ附帶スル事件ハ檢察官ノ請求ヲ待タス第二百七十六條ニ從ヒ裁判スルヿヲ得ルモ附帶セサル犯罪ニ付テハ檢察官ノ請求アルニ非サレハ本條ノ處分ヲ爲ス可カラス

〔四百三〕上告ニ付テハ第四百十條以下ヲ見ル可シ

〔四百四〕闕席裁判ハ第二百六十九條第二百七十條ニ定メタル條件アルニ非ニ從ヒ裁判言渡ヲ爲ス可シ 一六

第四百二條　弁論中公訴狀ニ記載シタル事件ニ附帶セサル他ノ重罪輕罪ヲ發見シタル場合ニ於テ檢察官ノ請求アル時ハ重罪裁判所ヲ開キタル裁判所ノ判事一名ヲシテ豫審ヲ爲サシメ本會又ハ次會ニ於テ本案ノ事件ト共ニ之ヲ裁判ス可シ

第四百三條　檢察官其他訴訟關係人ハ重罪裁判所ノ對審裁判言渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得四一〇以下、

第四百四條　闕席裁判ヲ爲スニハ裁判長書記ヲシテ公訴狀及ヒ必要ナリトスル豫審書類

サレハ之ヲ爲ス可カラサルヤ言ヲ待タス

民事擔當人ハ檢察官ノ陳述ニ付キ辯論スルヿヲ得ス若シ之ヲ許ス時ハ必ス被告人ノ無罪等ヲ辯シ以テ僥倖ニ法網ヲ免カレシメンヿヲ企望シ遂ニ第二百七十條ノ規則ヲシテ徒法ニ屬セシムルニ至ラン

〔四百六〕第三百十條ニ據ルニ禁錮以上ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ現ニ捕ニ就クニ非サレハ上訴ヲ爲スヿヲ得ス乃チ本條檢察ヲ朗讀セシメ又原被證人ノ陳述ヲ聽ク可シ 二六九、二七〇、

檢察官ハ法律ノ適用ニ付キ意見ヲ陳述シ民事原告人ハ要償ニ付キ意見ヲ陳述ス可シ 二、三四、

民事擔當人ハ答弁スルヿヲ得

第四百五條　闕席裁判言渡書ハ檢察官其他訴訟關係人ノ請求ニ因リ本人又ハ其住所ニ送達ス可シ

第四百六條　闕席裁判ニ係ル刑ノ言渡ニ對シテハ檢察官ニ非サレハ上告ヲ爲スヿヲ得ス」

民事原告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ノ裁判言

官ニ非サレハ上告ヲ爲スヿヲ得スト云フハ此趣意ニ原ツクナリ

〔四百七〕輕罪ニ付テハ第三百五十六條ニ定メタル場合ニ於テハ三日内ニ故障ヲ爲ス可キ者トス重罪ニ付テハ捕ニ就キタル場合ニ限リ十日内ニ故障ヲ爲サシム此ノ如ク相異ナル者ハ罪ノ輕重大ニ差ヘハナリ

渡ニ對シ上告ヲ爲スヿヲ得

第四百七條　闕席裁判ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ刑ノ期滿免除ニ至ルマテ何時ニテモ故障ヲ爲スヿヲ得但捕ニ就キタル時ハ十日内ニ故障ヲ爲ス可シ三一〇、

第四百八條　故障ノ申立ハ闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所ニ之ヲ爲ス可シ

重罪裁判所ニ於テハ先ツ其故障ヲ受理ス可キヤ否ヤヲ判決ス可シ

其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ本會又ハ次會ニ於テ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ裁判ヲ爲ス可シ

〔四百九〕故障ノ申立ハ原裁判所ニ爲ス可キ者ナレトモ重罪裁判所ハ常立ノ法廳ニ非サルヲ以テ其閉廳ノ後ハ控訴裁判所ニ申立テシム

控訴裁判所ニ於テ故障ヲ理アリトスル時ハ更ニ裁判ヲ爲サシムル爲メ重罪裁判所ニ移ス可シ

第四百九條　闕席裁判ヲ爲シタル重罪裁判所閉廳ノ後ハ其地ヲ管轄スル控訴裁判所ニ故障ノ申立ヲ爲ス可シ

控訴裁判所ニ於テ其故障ヲ受理ス可キ者ト判決シタル時ハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ重罪裁判所ノ裁判ヲ受ク可キノ言渡ヲ爲ス可シ

上告ハ上訴ノ一ニシテ最終ニ爲スヿヲ得可キ者ナリ其旨趣トスル所ハ事實ノ覆審ヲ求ムルニ非ス原裁判法律ニ違フヿアルヲ以テ之ヲ破毀セラレンヿヲ請フニ在リ

〔四百十〕公訴ノ審判ニ對シ上告スルヿヲ得可キ者ハ檢察官被告人ナリ而ルモ其上告スルノ原由アルニ非サレハ之ヲ受理セス乃チ本條其原由ヲ定ム

一、第二百三十七條ニ定メタル原由アルモ忌避ノ申立ヲ認可セサル等法律ニ背キタル時ヲ云フ

二、第二編ニ定メタル裁判所構成ノ規則ニ背クヿ例ヘハ判事三名ニテ重罪

第五編　大審院ノ職務

第一章　上告

第四百十條　檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲スヿヲ得二五七、三四六、三七一、四〇七、四〇三、

一法律ニ背キ忌避ノ申立ヲ認可セサル時二三九、二四一、二四四、

二裁判所ノ構成規則ニ背キタル時四七、四九以下、

三法律ニ背キ管轄違又ハ管轄ナリトノ言渡若クハ管轄ニ非サル裁判所ニ事件ヲ移スノ言渡アリタル時四〇以下、四八二四六、三三七、三六〇以下、

四法律ニ於テ無效ノ記載アル規則ニ背キタ

ヲ裁判シタル時ヲ云フ

三、管轄裁判所ナルコ管轄違トシ又ハ管轄ニ非サル裁判所ニテ管轄ナリト言渡シ若クハ豫審終結或ハ公判ニ於テ管轄ニ非サル裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタル時ヲ云フ

四、法律ニ於テ此規則ニ背キタル時ハ何々ノ效ナカル可シト特ニ記載シアルニ拘ハラスシテ其規則ヲ守ラサル時又ハ斯ノ如ク特別ニ無效トス可キ旨ヲ記載セスト雖モ規則ニ背キタル處分アルニ因リ訴訟關係人ヨリ異義ヲ申立ルモ之ヲ認可セサル時ヲ云フ

五、公訴消滅シ又ハ被害者ノ告訴ヲ要スル事件ニ付キ告訴アラサルニ公訴ヲ受理シ又ハ此二箇ノ原由ナキニ公訴ヲ受理セサル時ヲ云フ

六、第百二十八條等法律ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽キ何々ス可シト記載シアル場合ニ於テ之ヲ聽カサル時ヲ云フ

七、原被告ヨリ請求スル所ハ皆裁判セサル可カラサル者ナルニ之ヲ裁判セス又請求ナキ事件ニ付テハ第二百六十四條第二百六十七條等法律ニ於テ裁判所ノ職權ヲ以テ處分スルヿヲ許シタル場合ヲ除クノ外裁判スルヿヲ得サルニ拘ハラス之ヲ裁判スルハ法律ニ背ク者トス

八、裁判言渡ハ必ス公行ス可キ者ナルニ之ヲ秘密ニシ又第二百六十四條ニ

ル時又ハ無效ノ記載ナキ規則ニ背キタルニ因リ異義ノ申立アリタル場合ニ於テ之ヲ認可セサル時

五法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサル時九、

六法律ニ定メタル場合ニ於テ檢察官ノ意見ヲ聽カサル時一二八、二七三、二七五等

七裁判所ニ於テ請求ヲ受ケタル裁判ニ付キ判決ヲ爲サス又ハ職權ヲ以テ判決スルヿヲ得可キ場合ヲ除クノ外請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタル時

八裁判言渡ヲ公行セス又ハ傍聽ヲ禁スルノ言渡ナクシテ訊問及ヒ辯論ヲ公行セサル時二六三、二六四、

九事實及ヒ法律ニ依リ言渡ノ理由ヲ付セス又ハ其理由ノ齟齬アル時二二八、三〇四、

十擬律ノ錯誤アル時

十一越權ノ處分アル時

第四百十一條　免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ニ於テハ被告人ノ利益ノ爲メ定メタル規則ニ背キタルヿ又ハ犯罪ノ場所ニ因リ管轄違アリト雖モ上告ヲ爲スヿヲ得ス

第四百十二條　民事原告人被告人及ヒ民事擔當人ハ私訴ニ關スル豫審又ハ公判ノ言渡ニ

從ヒ傍聽ヲ禁スルノ言渡ヲ爲サスシテ被告人証人ノ訊問原被ノ辯論ヲ公行セサル時ヲ云フ

九、總テ言渡ニハ第二百二十八條第三百四條ニ從ヒ事實ト法律トニ依リ其理由ヲ付ス可キニ之ヲ付セス又之ヲ付スルモ互ニ相齟齬スルヲ以テ孰レカ當否ヲ判シ難キ時ヲ云フ

十、法律ノ適用其當ヲ得サル時ヲ云フ

十一、裁判所ノ權限ヲ超越シテ專横ノ處分ヲ爲シタル時ヲ云

〔四百十一〕免訴無罪ノ言渡ハ被告人ニ利ナル者ナルヲ以テ其利益ノ爲メ定メタル規則ニ背クトモ固ヨリ不服アルヲナク又原告ニ於テモ毫モ痛痒ノ關係ナカル可シ犯罪ノ場所ニ付キ管轄違アリト雖モ亦之ニ同シク原被ニ利害ナシ甲裁判所ニテ免訴無罪トスル者乙裁判所ニテ審理スルトモ刑ノ言渡ヲ爲スヲナカル可シ故ニ皆上告ヲ許サス然レトモ公益ノ爲メニ定メタル規則ニ背クカ又ハ犯罪ノ性質種類若クハ被告人ノ身分ニ付キ管轄違アル時ハ此限ニ在ラサルナリ

〔四百十二〕私訴ニ關係アル者ハ其言渡ニ對シ上告スルヲ許スト雖モ其原由ハ公訴ニ付キ定メタル所ト異ルヲナシ

〔四百十三〕本條ノ趣意ハ第三百四十九條第三百四十二條ニ定メタル所ト異ナルヲナシ

第四百十條ニ定メタル原由ニ付キ上告ヲ爲スヲ得

第四百十三條　上告ノ對手人ハ大審院ノ判決アルマテ何時ニテモ附帶ノ上告ヲ爲スヲ得

第四百十四條　上告ノ期限ハ三日ナリトス但大審院檢事長モ亦附帶ノ上告ヲ爲スヲ得

豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算シ公判ニ付テハ言渡アリタルヨリ起算ス

第四百十五條　豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告アリタル時ハ勾留保釋責付釋放及ヒ放免ノ言渡ヲ除クノ外其執行ヲ停止ス

第四百十六條　上告ヲ爲サントスル者ハ其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

上告ノ申立書ハ其申立アリタルヨリ二十四時内ニ書記ヨリ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十七條　上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

書記ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ對手人ニ送達ス可シ

第四百十八條　對手人ハ上告趣意書ヲ受取リタルヨリ五日内ニ答辯書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

〔四百十四〕上告ハ豫審ノ言渡ニ對スルト公判ノ言渡ニ對スルトヲ問ハス其期限ヲ三日ナリトス但其起算ノ法ヲ異ニス

〔四百十五〕上告期限内及ヒ上告アリタル時ハ其判決アルマテ原言渡ノ執行ヲ見合ス是レ之ヲ執行スル時ハ大概舊ニ復シ難キヲ以テナリ但被告人ノ自由ニ關スル處分ハ事實ノ裁判官ニテ判定シタル所ニ任セ即時ニ之ヲ執行セシム

〔四百十六〕上告ノ期限ハ僅ニ三日ニ過キサルニ因リ先ツ其旨ヲ申立ルヲ以テ足レリトシ而ノ後五日内ニ趣意書ヲ差出サシム對手人ハ附帶ノ上告ヲ爲スノ權アルヲ以テ上告アリタル旨ヲ通知ス

〔四百十七〕上告趣意書ハ原言渡ノ法律ニ背キタル廉ヲ擧示シテ之ヲ攻擊スル者ナリ大審院ニテ上告ノ趣意ヲ知ラサレハ判決ヲ下スヿ能ハス故ニ定期内ニ趣意書ヲ差出ササレハ上告ノ權ヲ失フニ至ル可シ

〔四百十九〕檢察官上告ノ申立人ナルト對手人ナルトヲ問ハス趣意書又ハ答辯書ハ二通ヲ差出ス可シ一通ヲ大審院ニ差出シ一通ヲ被告人ニ送達ス可キヲ以テナリ

被告人ニ付テハ一通ヲ差出スヲ以テ足レリトス何トナレハ對手人タル檢察官ニ送致スルモ永ク之ヲ其手ニ留置カス該官意見書記ハ其答辯書ヲ受取リタルヨリ二十四時内ニ之ヲ上告申立人ニ送達ス可シ

第四百十九條　檢察官ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ハ二通ヲ作リ一通ヲ大審院ニ差出シ一通ヲ對手人ニ送達ス可シ

私訴ノ裁判言渡ニ對シ訴訟關係人ヨリ差出ス可キ上告趣意書又ハ答辯書ニ付テモ亦同シ

第四百二十條　書記ハ前數條ニ定メタル期限經過シタル後速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出ス可シ

檢察官ハ其書類ヲ五日内ニ大審院檢事長ニ

差出シ且意見アル時ハ之ヲ添フ可シ

檢事長ハ上告事件ヲ刑事局ノ簿册ニ登記ス可キヿヲ院長ニ請求ス可シ

第四百二十一條　上告申立人及ヒ對手人ハ代言人ヲ差出スヿヲ得

重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲シ又ハ檢察官ヨリ重罪ノ刑ニ該ル可キ者トシテ上告ヲ爲シタル場合ニ於テ刑ノ言渡ヲ受ケタル者自ラ代言人ヲ選任セサル時ハ院長ノ職權ヲ以テ其院所屬ノ代言人中ヨリ之ヲ選任ス可シ　三七八、

第四百二十二條　院長ハ刑事局判事中ニテ專

書ヲ付シ之ヲ大審院ニ差出セハナリ

〔四百二十〕上告趣意書及ヒ答辯書ハ書記之ヲ取纏メテ訴訟書類ニ添檢察官ニ送致シ該官ヨリ大審院檢事長ニ差出ス者トス

上告ノ判決モ亦通常ノ訴訟ト同シク簿冊ニ登記シタル順序ニ從フヲ以テ檢事長ヨリ登記ノ事ヲ求ムル者トス

〔四百二十一〕檢察官ヲ除クノ外上告ノ關係人ハ代言人ヲ差出スコトヲ得若シ事件ヲ重罪ナリトスル場合ニ於テ被告人代言人ヲ選任セサル時ハ保護ノ爲メ官ヨリ代言人ヲ附ス是レ第三百七十八條ノ規則ト權衡ヲ保タンコトヲ主トシテナリ

任判事一名ヲ命ス可シ

專任判事ハ一切ノ書類ヲ檢閲シ其報告書ヲ作ル可シ但自己ノ意見ヲ付ス可カラス

第四百二十三條　上告申立人及ヒ對手人ハ專任判事ノ報告書ヲ差出スマテハ大審院書記局ヲ經由シテ其趣意ヲ擴張ス可キ辯明書ヲ差出スコトヲ得

專任判事報告書ヲ差出シタル後辯明書ヲ差出シタル時ハ之ヲ其報告書ニ添フ可シ

第四百二十四條　書記ハ開廷ヨリ三日前ニ開廷ノ日時ヲ上告申立人及ヒ對手人ノ代言人ニ報知ス可シ四二一、

〔四百二十二〕上告ノ趣意及ヒ答辯ハ皆法律ニ涉ル者ニシテ公判ニテ論辯スル時ハ無益ニ日數ヲ要スルノ恐アリ故ニ專任判事ヲ命シ一切ノ書類ヲ調査シテ報告ヲ爲サシム

〔四百二十四〕上告申立人及ヒ對手人ニ於テ代言人ヲ差出サヽル時ハ此手續ヲ爲スコトナキヤ言ヲ待タス

〔四百二十五〕代言人アラザル時ハ專任判事ノ報告及ヒ檢事長ノ陳述ニ依リ判決ヲ爲ス者トス

私訴ノ上告ニ付テハ檢察官之ニ關係セサルヲ以テ止タ最終ニ意見ヲ陳述スルノミ

〔四百二十六〕上告ノ關係人ハ第四百二十一條ニ從

第四百二十五條　開廷ノ日ニハ公廷ニ於テ專任判事其報告書ヲ朗讀ス可シ

檢事長及ヒ代言人ハ各其趣意ヲ辯明ス可シ

私訴ノ上告ニ付テハ檢事長最終ニ其意見ヲ陳述ス可シ

第四百二十六條　上告申立人又ハ對手人ヨリ代言人ヲ差出サヽル時ハ其儘ニテ判決ヲ爲ス可シ

第四百二十七條　大審院ニ於テ上告ノ理由ナシトスル時ハ之ヲ棄却スルノ言渡ヲ爲ス可シ四一〇、

第四百二十八條　大審院ニ於テ豫審又ハ公判

ヒ代言人ヲ差出スヿヲ得ルノミニシテ必ス之ヲ差出サヽル可カラサル者ニ非ス故ニ之ヲ差出サスト雖モ之ニ拘ハラス對審トシテ判決ヲ爲スヿリ

〔四百二十七〕上告ノ理由ナシトハ第四百十條ニ記載シタル原由ナキヿヲ云フ

〔四百二十八〕大審院ハ事實ヲ審判セサルヲ以テ原言渡ヲ破毀スル時ハ更ニ事實ニ付キ裁判ヲ爲サシムル爲メ他ノ裁判所ニ其事件ヲ付ス可シ

〔四百二十九〕法律適用ヲ誤リテ裁判ヲ爲シタル時ハ大審院ニテ更ニ適當ナル法律ノ正條ヲ施用シ又公訴消滅シタル者ヲ受理シ或ハ消滅セサル者ヲ受理セサルヿアル時ハ原言渡ヲ取消シタル上ニテ更ニ受理ス可カラサルノ言渡ヲ爲シ若クハ受理ス可キトシテ相當ノ判決ヲ爲ス可シ

〔四百三十〕訴訟ノ手續規則ニ背ク時ハ利害ヲ後ノ手續ニ及ホスノ恐アリ故ニ之ヲ取消シタル上ニテ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヲ以テ正則トス然レ𪜈後ニ利害ヲ及ホスヿナキ時ハ之ヲ他ニ移シテ裁判セシムルモ其利益ナシ故ニ其手續ヲ取消スニ止マル可シ

〔四百三十一〕言渡ノ幾分ニ對スル上告トハ例ヘハ其犯數名ニ對シ刑ヲ言渡シタルニ其中幾名ノミ上告シタルノ類ヲ云フ此場ノ言渡ニ對スル上告ニ付キ破毀ノ原由アリトスル時ハ其言渡ノ全部ヲ破毀シ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可シ但後ノ數條ニ記載シタル場合ハ此限ニ在ラス 四一〇四

第四百二十九條　擬律ノ錯誤若クハ法律ニ背キ公訴ヲ受理シ又ハ受理セサルヿニ因リ原裁判言渡ヲ破毀シタル時ハ其事件ヲ移スヿナク大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ 四一〇ノ五、十

第四百三十條　豫審又ハ公判ノ手續規則ニ背キタルヿアリト雖モ其後ノ手續ニ利害ヲ及

ホサヽル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿナク止タ其手續ヲ破毀ス可シ 四一一、

第四百三十一條　豫審又ハ公判ノ言渡ノ幾分ニ對シ上告アリタル場合ニ於テ他ノ部分ニ關係アラサル時ハ大審院ニ於テ其上告ニ係ル部分ヲ破毀シ法律ニ從ヒ直チニ相當ノ裁判言渡ヲ爲シ又ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可シ

第四百三十二條　大審院ニ於テ原裁判言渡ヲ破毀シ直チニ裁判言渡ヲ爲シタル時ハ原裁判所又ハ他ノ裁判所ヲシテ其執行ヲ爲サシム可シ 四九二以下

合ニ於テ其上告他ノ部分ニ關係ナク之ヲ破毀スルモ影響ヲ他ニ及ホスコトナキ時ハ止タ其上告ニ係ル部分ノミヲ破毀ス可シ

〔四百三十一〕大審院自ラ裁判ヲ爲スト雖モ其執行ハ之ヲ他ノ裁判所ニ任ス蓋シ被告人ハ原裁判所ノ下ニ在ルヲ以テ之ヲシテ執行セシムルヲ最モ多カラン但重罪裁判所ノ如キハ閉廳スルヲアルヲ以テ原裁判所ノミニ限ラサルナリ

〔四百三十二〕事件ノ送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ更ニ事實ノ取調ヲ爲スヲ以テ原裁判所ニ接近スルニ非サレハ大ニ不都合ヲ生ス可シ是レ本條ノ規則ヲ設ケ以テ大審院ノ

第四百三十三條　大審院ニ於テ破毀シタル事件ヲ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲ス可キ時ハ原裁判所ニ接近シタル同等ノ裁判所ヲ定示ス可シ其單ニ私訴ニ係ル事件ハ之ヲ民事裁判所ニ移ス可シ　四二八、

第四百三十四條　法律ニ係ル大審院ノ判決ハ確定ノ者トス

大審院ヨリ送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判言渡ニ對シテハ通常ノ規則ニ從ヒ更ニ上告ヲ爲スコトヲ得　四一〇以下

第四百三十五條　法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ヲ言渡シ又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ

隨意ニ裁判所ヲ定示スルコトヲ許サヽル所以ナリ

〔四百三十四〕大審院ハ法律ヲ統一シ其適用ヲ一途ニ出テシムル者ナリ故ニ其法律ニ係ル判決ハ決シテ動カス可カラサル者ナリトス例ヘハ通常裁判所ノ管轄ナリト判決シタル時ハ送付ヲ受ケタル裁判所ニテ同一ノ原由ニ因テ管轄ニ非スト言渡スコトヲ得ザルノ類

送付ヲ受ケタル裁判所ノ裁判ハ事實及ヒ法律ニ付キ未確定セサル者也故ニ第四百十條ノ原由アル時ハ更ニ上告スルコトヲ許ス

〔四百三十五〕非常上告ハ即チ期限外ノ上告ナリ此上告ヲ爲スコトヲ得ルハ本條ニ定メタル二箇ノ場合

言渡シタル場合ニ於テ定期内ニ上訴スル者ナクシテ其裁判言渡確定シタル時ハ大審院檢事長ヨリ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ何時ニテモ非常上告ヲ爲スコトヲ得

非常上告アリタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス可シ

第四百三十六條　左ノ場合ニ於テハ大審院ノ裁判言渡ニ對シ檢事長其他訴訟關係人ヨリ其院ニ哀訴スルコトヲ得

一大審院ニ於テ前數條ニ定メタル式ヲ履行セサル時

二訴訟關係人ヨリ申立タル條件ニ付キ判決

ニ限リ其他ハ如何ナル不正ノ裁判アリト雖モ其確定シタル以上ハ復タ奈何トモシ難キ者トス

〔四百三十六〕大審院ハ最上等ノ法廳ナルヲ以テ仮令其判決ニ當ラサル所アリトスルモ決シテ上訴スルヿヲ得ス上訴ヲ受ク可キ上等ノ裁判所アラサレハナリ但本條ニ定メタル場合ニ於テハ大審院ニ申立テ前判決ノ改正アランヿヲ懇願スルヿヲ許ス是レ所謂哀訴ナリ

〔四百三十七〕哀訴ヲ爲スヿヲ許スト雖モ其期限ヲ定メサレハ大審院ノ判決永ク確定セサルニ至ラン故ニ三日内ニ其申立ヲ爲サシム

〔四百三十八〕三日間執行ヲ爲サヽル時

三同一ノ裁判言渡ニ付キ二箇ノ條件齟齬シタル時

第四百三十七條　哀訴ヲ爲サントスル者ハ裁判言渡アリタルヨリ三日内ニ書記局ニ其申立ヲ爲ス可シ

書記ハ申立書ヲ受取リタルヨリ三日内ニ之ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ同一ノ期限内ニ其答辯書ヲ差出ス可シ

大審院ニ於テハ通常上告ノ規則ニ從ヒ哀訴ノ判決ヲ爲ス可シ

第四百三十八條　大審院ノ裁判言渡ハ其言渡

ヲ停止スルハ其哀訴ノ期限内ナルヲ以テナリ

再審ノ訴トハ事實ノ錯誤アル場合ニ於テ其調直シヲ求ムル者ヲ云フ

〔四百三十九〕再審ノ訴ハ重罪輕罪ノ事件ニ付キ之ヲ爲スヿヲ許シ違警罪事件ニ及ハス是レ其事件瑣細ナルヲ以テナリ又被告人ノ利益ノ爲メニ爲スヿヲ得ルノミニシテ如何ナル不正ノ裁判アリテ有罪ヲ法網ニ免カレシメタリトモ再ヒ之ヲ訴フルヿヲ許サス是レ再審ノ訴ハ元來無事ヲ保スル爲メニ設ケタル者ナレハナリ

裁判確定ノ後ニ非サレハ再審ヲ求ムルヿヲ許サヽルハ未確定ノ裁判ニ付テアリタルヨリ三日間又哀訴アリタル時ハ其判決アルマテ執行ヲ停止ス

第二章　再審ノ訴

第四百三十九條　再審ノ訴ハ左ノ場合ニ於テ重罪輕罪ノ刑ノ言渡ニ對シ被告人ノ利益ノ爲メ之ヲ爲スヿヲ得但裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ爲スヿヲ得ス

一人ヲ殺シタル罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル後其言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存シ又ハ犯罪前既ニ死去シタルノ確證アリタル時

二同一ノ事件ニ付キ共犯ニ非スシテ別ニ刑

ハ猶ホ其裁判ニ對シ上訴スルノ路アレハナリ

一、言渡ノ日ニ當リ殺サレタリト認メラレシ者現ニ生存スルニ於テハ殺人罪アル可キノ理ナク仮令之アルモ被害者ノ人違ナルヤ知ル可シ又犯罪前既ニ死去シタルノ確證アル時モ亦同シ死者ヲ殺スノ理アラサレハナリ

二、同一ノ事件ニ付キ數人刑ノ言渡ヲ受ク共犯ナレハ固ヨリ然ルヿアリ然レトモ共犯ニ非ストセハ就レカ一方ノ者冤罪ナルヤ知ル可シ

三、犯罪ノ時ニ當リ其場所ニ在ラサル時ハ無罪ナルノ確證トス惟犯罪以前ニ作リタル公正ノ證書ヲ要スル者ハ倖ニ罪ヲ免カ

ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時

三犯罪アル以前ニ作リタル公正ノ證書ヲ以テ當時其場所ニ在ラサルヿヲ證明シタル時

四被告人ヲ陷害シタル罪ニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者アリタル時刑、二二〇、以下二二四、二八六ノ三、二八七、三

五公正ノ證書ヲ以テ訴訟書類ニ偽造又ハ錯誤アルヿヲ證明シタル時

第四百四十條　再審ノ訴ヲ爲スヿヲ得可キ者

左ノ如シ

一刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官

ンカ爲メ後日之ヲ作ルニ至ルノ恐アレハナリ

四、官吏賄賂ヲ收受シテ被告人ヲ陷害シ又證人偽證陷害シタルニ因リ刑ノ言渡ヲ受ケタル等ノ場合ニ於テハ被告人ノ冤罪ニ陷リタルヿヲ證ス可シ

五、偽造又ハ錯誤アル書類ニ依リ裁判ヲ爲シタル時ハ從テ其裁判ノ不當ナルノ疑アリ故ニ再審ノ訴ヲ爲スヿヲ許ス

〔四百四十〕再審ノ訴ハ一般ニ檢察官ヨリ爲スヿヲ許ス是該官ハ皆公益ヲ保護スルノ職ニ在レハナリ刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル場合ニ於テ其親屬ヨリ此訴ヲ爲スヿヲ許スハ死者ノ名譽ヲ復スルヲ得セシムル爲メナリ

二刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ヲ管轄スル控訴裁判所ノ檢事長

三大審院檢事長但司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其訴ヲ爲ス可シ

四刑ノ言渡ヲ受ケタル者

五刑ノ言渡ヲ受ケタル者死去シタル時ハ其親屬

第四百四十一條　再審ノ訴ハ刑ノ消滅シタルニ拘ハラス何時ニテモ之ヲ爲スヿヲ得

第四百四十二條　再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ原裁判言渡書ノ謄本及ヒ證憑書類ヲ添ヘ之ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス

〔四百四十一〕刑ノ滿期又ハ期滿免除等ニ因リ消滅シタル時ト雖ヒ名譽ヲ復シ汚辱ヲ雪カンカ爲メ何時ニテモ再審ヲ求ムルヿヲ許ス

〔四百四十二〕再審ノ訴ヲ爲サントスル者ハ第四百三十九條ニ定メタル原由アルヿヲ趣意書ニ記載シ且其證憑書類ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ

〔四百四十三〕再審ノ訴アリタル時ハ申立人ノ陳フル所ニ相違ナキヤ否ヲ取調ヘシムル爲メ專任判事ヲ命スルナリ

〔四百四十四〕再審ノ訴ハ被告人ノ名譽ヲ復シ且刑期中ナレハ其執行ヲ速ニ停止スルヲ要スルヲ以テ上告其他大審院ノ管掌ス可シ

第四百四十一條　刑ノ滿期又ハ免除等ニ因リ消滅シタル時ト雖ヒ名譽ヲ復シ汚辱ヲ雪カンカ爲メ何時ニテモ再審ヲ求ムルヿヲ許ス

原裁判所ノ檢察官ハ其書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ大審院檢事長ニ差出ス可シ

原裁判所ノ檢察官及ヒ控訴裁判所檢事長自ラ再審ノ訴ヲ爲サントスル時ハ前項ノ手續ニ從ヒ其書類ヲ差出ス可シ

第四百四十三條　大審院ニ於テハ檢事長ノ請求ニ因リ速ニ專任判事一名ヲシテ其取調ヲ爲シ報告書ヲ差出サシム可シ

第四百四十四條　大審院ニ於テハ他ノ事件ヲ閣キ刑事局判事全員會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ判決

ル所ノ事件ヲ閣キ急速ニ其判決ヲ爲スナリ

〔四百四十五〕再審ノ原由アルニ因リ原言渡ヲ取消スト雖ヒ大審院ニテ更ニ其事實ヲ取調ヘス必他ノ裁判所ニ其事件ヲ移シ更ニ裁判ヲ爲サシムルナリ

公訴ニ付キ原裁判ニ誤謬アリトスルハ亦私訴ノ裁判其當ヲ得サリシノ推測ヲ生ス故ニ私訴ニ付テモ再審ヲ爲サシム

〔四百四十六〕死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移ス可カラス仮令之ヲ移スモ刑ノ言渡ヲ受ケタル者既ニ死去シタルヲ以テ更ニ公訴私訴ニ付キ辯論ヲ行フヿ能ハサレハナリ是ヲ以テ惟原裁判ヲ取消ヲ爲ス可シ

第四百四十五條　大審院ニ於テ再審ノ原由アルヿヲ認メタル時ハ原裁判言渡ヲ破毀シ公訴及ヒ私訴ニ付キ再審ヲ爲ス可キヿヲ言渡シ其事件ヲ原裁判所ト同等ナル他ノ裁判所ニ移ス可シ　四三九

其送付ヲ受ケタル裁判所ニ於テハ通常ノ規則ニ從ヒ裁判ヲ爲ス可シ

第四百四十六條　死者ノ親屬ヨリ再審ノ訴ヲ爲シタル場合ニ於テ大審院ニテ再審ノ原由アルヿヲ認メタル時ハ其事件ヲ他ノ裁判所ニ移スヿナク原裁判言渡ヲ破毀ス可シ　四四〇五

シ公訴ニ付テハ復タ審判ヲ行ハス私訴ニ付テハ其關係人ヨリ民事裁判所ニ出訴スルニ任ス

〔四百四十七〕前ニ刑ノ言渡ヲ受ケタル者全ク無罪ナリシコトヲ知リタル時又ハ既ニ死去シタルヲ以テ更ニ審問ヲ遂クルヲ得ス從テ罪ノ有無ヲ判スルヲ能ハサル時ハ罪ノ疑ハシキヲ問ハサルノ原則ニ從ヒ無罪ト看做シ其者ノ名譽ヲ復シ汚辱ヲ雪ク爲メ無罪又ハ破毀ノ言渡書ヲ掲示場ニ公示シ且廣ク世上ニ告知スル可シ

〔四百四十八〕特別裁判所トハ陸海軍裁判所ノ如ク其管轄通常ニ異ナル者ヲ云フ

何レノ裁判所ニ於テモ管轄ニ非ストシテ訴訟ヲ受

第四百四十七條　再審ノ裁判ニ因リ無罪ノ言渡アリタル時又ハ前條ノ場合ニ於テ破毀ノ言渡アリタル時ハ其者ノ名譽ヲ復スル爲メ其言渡書ヲ掲示公告ス可シ

第三章　裁判管轄ヲ定ムルノ訴

第四百四十八條　通常裁判所ト特別裁判所トヲ問ハス管轄ニ非サルノ言渡ヲ爲シ其言渡確定シタル時又忌避ノ原由若クハ非常ノ事變ニ因リ訴訟事件ヲ管理スルヲ能ハサル時ハ檢察官其他訴訟關係人ヨリ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲スヲヲ得

大審院檢事長ハ司法卿ノ命ニ因リ又ハ職權

理セス又裁判官ニ於テ訴訟關係人ヨリ忌避セラレ或ハ一揆暴動等ニ因リ管轄裁判所ニ出訴スルヲヲ得サル時ハ訴訟ヲ爲ンニ其路ナキヲ以テ大審院ニ於テ相當ノ裁判所ヲ指定セラレンヲヲ求ムルヲ許ス

〔四百五十〕專任判事ノ報告書云々トアリテ此判事ヲ命スルノヲナシ然レトモ第四百四十三條ニ定メタル如ク檢事長ノ請求ニ因リ之ヲ命ス可キ者タルヤ知ル可シ

〔四百五十一〕法律ニ從ヒ正當ナル管轄裁判所ナリト雖モ其裁判所ニ於テ審判ヲ行ヘハ爲メニ安ヲ害スルノ恐アル時ハ必ス他ニ其事件ヲ移サヽル可カラス而シテ其公安ヲ害ス

ヲ以テ其訴ヲ爲スヲヲ得

第四百四十九條　裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ爲サントスル者ハ其趣意書ニ訴訟書類ヲ添ヘ之ヲ大審院ノ書記局ニ差出ス可シ

第四百五十條　大審院ニ於テハ刑事局判事五名以上會議局ニ集會シ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ裁判管轄ヲ定ムルノ訴ヲ判決シ其事件ヲ管理ス可キ裁判所ヲ定示ス可シ

第四章　公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴

第四百五十一條　犯罪ノ性質被告人ノ身分員

ルノ恐アリトスルノ原因ハ一ニメ是ラス犯罪ノ性質常ニ異ナルカ被告人ノ身分高顯ナルカ其員數極メテ多キカ其地ノ民皆被告人ヲ推戴スルカ又ハ之ト怨隙アル等ノ原因尤モ多キニ居ラン總テ是等ノ原因アリテ公平ナル裁判ヲ得難キノミナラス人心ノ激動ヲ生シ遂ニ裁判ヲ爲スヿヲ得サルニ至ルヲ恐ルヽ時ハ此訴ヲ爲スヿヲ許ス

〔四百五十二〕公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スハ政府ノ職ニシテ訴訟關係人ノ利害ニ關セス故ニ大審院檢事長ノミ此訴ヲ爲スヿヲ得可シトス

〔四百五十三〕前條ニ定ムル如ク訴訟關係人ハ公安數地方ノ民心其他重大ナル事情ニ因リ裁判ニ對シ紛擾又ハ危險ヲ生スルノ恐アル時ハ公安ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得

第四百五十二條　公安ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ判決スルハ其趣意書ヲ聽ノ訴ハ司法卿ノ命ニ因リ大審院檢事長ヨリ其院ニ之ヲ爲ス可シ

第四百五十三條　大審院ニ於テハ會議局ニテ訴訟關係人ノ申立ヲ聽クヿナク速カニ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十四條　被告人ノ身分地方ノ民心又ハ訴訟ノ模樣ニ因リ裁判ノ公平ヲ維持スル

ノ爲メ管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スヿヲ得ス故ニ此訴ヲ判決スルハ其申立ヲ聽カサルナリ

〔四百五十四〕本條ニ定ムル所ハ第四百五十一條ノ規則ト略ホ其趣意ヲ同シフス然レトモ彼ハ裁判ニ對シ紛擾危險ヲ生スルヿヲ恐レ公安ノ害ヲ防クヿヲ主トス此ハ裁判ノ不公平ニ出ルヲ恐レ裁判官ノ不羈獨立ヲ保シ刑ノ出入ヲ防クヿヲ主トス事體似テ其實ハ異ナリ

〔四百五十五〕裁判官公平ヲ枉クルヿヲ恐レ管轄ヲ移スハ訴訟關係人ノ利害ニ係ルヿヲ以テ此訴ヲ爲スヿヲ得可キ者ハ第四百五十二條ニ定ムル所ト異ニシテ現ニ訴訟ニ關係スル者ヿ能ハサルノ恐アル時ハ嫌疑ノ爲メ其事件ヲ同等ナル他ノ裁判所ニ移スヿヲ得

第四百五十五條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ハ管轄裁判所ノ檢察官其他訴訟關係人ヨリ之ヲ爲スヿヲ得

民事原告人嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲シ又被告人其裁判所ニ於テ異議ノ申立ナクシテ本案ニ付キ辯論ヲ爲シタル時ハ前項ノ訴ヲ爲スヿヲ得ス

第四百五十六條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スニハ其趣意書二通ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出ス可シ

ニ限ル

民事原告人ハ必ス公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲ス可キ者ニ非ス而ハニ嫌疑アル裁判所ニ私訴ヲ爲ス時ハ即チ甘シテ其裁判ヲ受ケンコトヲ承諾シタル者ト看做ス可シ又被告人ニ於テ裁判官ノ不公平ナランコトヲ疑フ時ハ本案ノ事件ヲ弁論スルニ前チ先ツ異議ヲ申立ツ可キニ其事ナクシテ已ム時ハ亦裁判ヲ甘受シタル者ト推測スルニ定ル故ニ此事由アル時ハ管轄ヲ移スノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

〔四百五十八〕公安ノ爲メ管轄ヲ移スノ訴アリト雖ヒ本案ニ付テノ手續ヲ停止セス之ニ反シ嫌疑ノ爲メ管轄ヲ移スノ訴アレハ即時ニ訴訟手續ヲ停止シ大審院ノ判決ヲ待タシム此差異ノ由テ生スル所以ノ者ハ一ハ大審院檢事長ノミ請求スルコトヲ得ルモ訴訟關係人ニ其權ヲ與ヘス一ハ單ニ訴訟關係人ニ限リ申訴スルコトヲ許シタルノ區別ニ原ツク

書記ハ速ニ一通ヲ對手人ニ送達シ對手人ハ其達送アリタルヨリ三日内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ得

第四百五十七條　大審院ニ於テハ第四百五十條ノ規則ニ從ヒ前條ノ訴ヲ判決ス可シ

第四百五十八條　嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移スノ訴アリタル時ハ裁判所ニ於テ其訴訟手續ヲ停止ス

〔四百五十九〕總テ刑ハ其犯人ノ身体ニ關セサル者ト雖ヒ一旦之ヲ執行ル時ハ復タ奈何トモシ難キコトアリ故ニ裁判確定スルヲ待テ始メテ執行スルナリ

〔四百六十〕死刑ハ司法卿ノ命令アルニ非サレハ之ヲ行ハス人ノ生命ヲ奪フニ在ルヲ以テ濫リニ執行セサルナリ故ニ原檢察官ヨリ書類ヲ司法卿ニ差出シ其命令ヲ請フ

〔四百六十一〕死刑ハ司法卿ノ命令ヲ待チ之ヲ行フト雖ヒ其他ノ刑ハ裁判確

第六編　裁判執行復權及ヒ特赦

第一章　裁判執行

第四百五十九條　重罪輕罪違警罪ノ刑ハ裁判確定ノ後ニ非サレハ之ヲ執行ス可カラス五刑、○、

第四百六十條　死刑ノ言渡確定シタル時ハ檢察官ヨリ速ニ訴訟書類ヲ司法卿ニ差出ス可シ刑、一三、

司法卿ヨリ死刑ヲ執行ス可キノ命令アリタル時ハ三日内ニ其執行ヲ爲ス可シ

第四百六十一條　死刑ヲ除クノ外刑ノ言渡確定シタル時ハ直チニ之ヲ執行ス可シ

定スルヤ否ヤ直チニ執行スル者トス

〔四百六十二〕刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官之ヲ指揮スルヲ正則トス若シ大審院ニ於テ第四百二十九條以下ノ規則ニ從ヒ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ該院ノ特ニ定示シタル裁判所ノ檢察官其指揮ヲ爲ス可シ

破壞ス可キ沒收物品トハ貨幣ヲ僞造スルノ器具等ヲ云ヒ廢棄ス可キ物品トハ春畫ノ類ヲ云フ

〔四百六十三〕死刑ハ刑ノ尤モ重大ナル者ナリ故ニ其執行ヲ爲スニハ鄭重ヲ主トシ執行規則ニ定メタル官吏之ニ立會フノ外書記モ亦之ニ立會ヒ始末書ヲ作ル可シ

第四百六十二條　刑ノ執行ハ原裁判所ノ檢察官又ハ大審院ヨリ命ヲ受ケタル裁判所ノ檢察官ノ指揮ニ因リ之ヲ爲ス可シ　四三二

罰金科料裁判費用及ヒ沒收物品ハ檢察官ノ命令書ニ依リ之ヲ徵收ス可シ

破壞又ハ廢棄ス可キ沒收物品ハ檢察官之ヲ處分ス可シ

第四百六十三條　死刑ノ執行ニ付テハ書記其始末書ヲ作リ刑ノ執行規則ニ從ヒ立會ヲ爲シタル官吏ト共ニ署名捺印ス可シ

其他刑ノ執行ニ關スル方法細目ハ別ニ規則ヲ以テ之ヲ定ム

死刑以下ノ刑ヲ執行スルニハ或ハ徒刑場ニ入レ役ニ服セシメ或ハ流刑執行ノ島地ニ發遣スル等各其手續アリ僅々數條ヲ以テ定ム可キニ非ス故ニ別段ノ規則ヲ以テ之ヲ定ムル者トス

〔四百六十四〕既決犯罪表ハ一目シテ犯人ノ再三犯ニ係ルヤ否ヲ知ル爲メニ設クル者ニシテ實際其用尠カラス故ニ刑ノ言渡確定シ又闕席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作リ左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ　四三二

一犯人ノ氏名年齡職業住所及ヒ出生ノ地

二罪名刑名

三再犯

四裁判言渡ヲ爲シタル年月日

五對審裁判又ハ闕席裁判

第四百六十四條　裁判言渡確定シ又ハ闕席裁判アリタル時ハ其刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ書記既決犯罪表ヲ作リ左ノ條件ヲ記載ス可シ但大審院ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其執行ヲ爲シタル裁判所ノ書記之ヲ作ル可シ　四三二

一犯人ノ氏名年齡職業住所及ヒ出生ノ地

二罪名刑名

三再犯

四裁判言渡ヲ爲シタル年月日

五對審裁判又ハ闕席裁判

第四百六十五條　既決犯罪表ハ二通ヲ作リ一

〔四百六十五〕既決犯罪表ハ前ニ述フルカ如ク再犯

ナルヤ否ヲ知ルノ便ニ供スル者ナルヲ以テ其一通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記ヲ司法省ニ差出サシム是レ何レノ裁判所ヲ問ハス再犯ヤリトノ疑アル時ハ直チニ司法省ニ申出テ其取調ヲ求ムルニ便利ナラシムル爲メナリ但違警罪ハ一年内同一ノ裁判所ノ管轄地内ニ於テ再ヒ犯スニ非サレハ再犯ヲ以テ論セサルニ因リ既決犯罪表一通ヲ司法省ニ差出サシメス其用アラサルヲ以テナリ

〔四百六十六〕言渡ノ條件ニ付疑義ノ申立トハ判決文不明瞭ナルヲ以テ其意義如何ノ解釋ヲ求ムル者ヲ云フ執行ニ付キ異議ノ申立トハ刑ヲ執行スルニ當リ其刑ノ種類分量又ハ

通ヲ司法省ニ送致シ一通ヲ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

違警罪ノ既決犯罪表ハ一通ヲ作リ其裁判所ノ書記局ニ藏置ス可シ

第四百六十六條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者其言渡ノ條件ニ付キ疑義ノ申立又ハ其執行ニ付キ異議ノ申立ヲ爲シタル時ハ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ於テ之ヲ判決ス可シ

第四百六十七條　刑ノ言渡ヲ受ケタル者逃亡ノ後捕ニ就キタル場合ニ於テ人違ノ申立アリタル時ハ之ヲ認定スル爲メ前ニ其罪ヲ認メタル裁判所ニ送致ス可シ

人違等ニ關シ彼是故障ヲ申立テ之ヲ拒ム者ヲ云フ

〔四百六十七〕犯人ノ人違ナルヤ否ハ前ニ其裁判ニ干預シタル者ニ非サレハ之ヲ確定スルヿ能ハス故ニ原裁判所ニ送致ス然レトモ前ニ其事件ニ干預シタル者既ニ原裁判所ニ在ラサル時ハ判定シ難キノ恐アリ因テ事實參考ノ爲メ之ヲ呼出スヿヲ許ス

〔四百六十八〕言渡ニ付キ疑義ヲ申立テ執行ニ付キ異議ヲ生シ又犯人逃亡ノ後捕ニ就クモ人違ノ申立ヲ爲ス時ハ更ニ其申立ノ當否ヲ裁判スルト雖モ固ト本案事件ノ判決ト其性質ヲ同フセス故ニ此裁判ニ對シテハ控訴上告ヲ許サス

裁判所ニ於テ本犯ナルヿヲ認定スルヿ能ハサル時ハ事實參考ノ爲メ曾テ其事件ニ干預シタル裁判官檢察官書記又ハ原被ノ證人ヲ呼出スヿヲ得

第四百六十八條　前二條ノ場合ニ於テハ公廷ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ノ申立及ヒ檢察官ノ意見ヲ聽キ裁判言渡ヲ爲ス可シ但其言渡ニ對シテハ上訴ヲ許サス

第四百六十九條　賠償及ヒ訴訟關係人ニ償還ス可キ裁判費用ニ付キ其言渡ノ執行ハ通常民事ノ規則ニ從フ

第二章　復權

〔四百六十九〕被告人民事原告人ノ間ニ於テ要求スル賠償及ヒ裁判費用ニ關スル言渡ハ檢察官其執行ニ干渉ス可キ者ニ非サルヲ以テ民事ノ規則ニ從ヒ權利者徴收ノコトヲ擔任ス可シ

〔四百七十〕復權トハ重罪ヲ犯シタルニ因リ公權ヲ剝奪セラレシ者ニ對シ特典ヲ以テ其將來ノ權利ヲ復スル者ヲ云フ此請願ヲ爲スノ權ハ獨リ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ニ限ル而ノ其權ノ生スルハ主刑ノ終リタルヨリ五年ノ後トス願人ハ前ニ重罪裁判所ニテ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ナリト雖ヒ其裁判所ヲ經由シテ願書ヲ差出サス必ス現住ノ地ヲ管轄スル始

第四百七十條　復權ノ願ハ刑法第六十三條ニ定メタル期限經過シタル後刑ノ言渡ヲ受ケタル者ヨリ司法卿ニ之ヲ爲ス可シ

復權ノ願書ニハ本人署名捺印シ現ニ住スル地ノ始審裁判所檢事ニ之ヲ差出ス可シ

第四百七十一條　復權ノ願書ニハ左ノ書類ヲ添フ可シ

一裁判言渡書ノ謄本

二主刑ノ滿期特赦又ハ期滿免除ト爲リタルコトヲ證明スル書類

三假出獄及ヒ假ニ監視ヲ免セラレタルノ證書

四賠償及ヒ裁判費用ヲ辨濟シ又ハ其義務ヲ

審裁判所ノ檢事ヲ經由セシム是レ裁判所ノ檢事ヲシテ一應願人ノ品行等ヲ取調ヘシムルヲ要スルト願人ヲシテ遠ク其地ヲ離レシムルノ益ナキヲ以テナリ

〔四百七十一〕本條ニ記載シタル書類ハ必ス願書ニ添フ可シト云フコト非ス其特赦又ハ期滿免除ナキ時ハ之ヲ証スルニ由ナク又假出獄若クハ假ニ監視ヲ免セラレサル時モ亦之ヲ証スルノ謂レナキヲ以テナリ畢竟復權ハ犯人ノ情狀如何ニ因リ之ヲ許否スル者ナルカ故ニ苟クモ善ニ化シ行ヲ悛メタルノ証ト爲ル可キ事柄ヲ証スルヲ要ス

〔四百七十二〕檢事願書ヲ免カレタルノ證書

五過去現在ノ住所及ヒ生計ヲ記載スル書類

第四百七十二條　檢事ハ願人ノ品行其他必要ノ取調ヲ爲シ前條ノ書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ控訴裁判所檢事長ニ差出ス可シ

第四百七十三條　檢事長ハ更ニ必要ノ取調ヲ爲シ復權ノ願ニ關スル書類ニ意見書ヲ添ヘ之ヲ司法卿ニ差出ス可シ

第四百七十四條　司法卿ハ復權ノ願ニ關スル書類ヲ檢閲シ其願ヲ允許ス可キ者ト認メタル時ハ速ニ上奏ス可シ

第四百七十五條　勅裁又ハ司法卿ノ意見ニ因

受取リタル時ハ先ツ願人ノ品行果シテ善良ニ趣キタルカ其申立ル所果シテ事實ニ違ハサル等ノ取調ヲ爲シ而ル後意見書ヲ作リ以テ許否ノ見込ヲ附シ請願ニ關スル書類ト共ニ控訴裁判所檢事長ニ送致ス可キ者トス

〔四百七十四〕復權ノ許否ハ勅裁ニ依ル者ナリト雖モ末タ主刑ノ終リタルヨリ五年ヲ經過セサル等ノ原由アルニ因リ其願ヲ允許ス可カラストスル時ハ司法卿ノ手限リニテ之ヲ棄却スルヿヲ得

〔四百七十五〕復權ノ願ヲ棄却スルト雖モ犯人自新ノ路ヲ塞クノ理ナキヲ以テ通常請願ノ期限ノ半即チ二年半ノ後ニ至リ更ニ復權ノ願ヲ棄却シタル時ハ司法卿ヨリ其旨ヲ控訴裁判所檢事長ニ通知シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判所檢事ニ通知ス可シ

前項ノ場合ニ於テハ刑法第六十三條ニ定メタル期限ノ半ヲ經過スルニ非サレハ更ニ其願ヲ爲スヿヲ得ス

更ニ復權ノ願ヲ爲スニ付テモ亦前數條ノ規則ニ從フ

第四百七十六條　復權ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ其裁可狀ヲ控訴裁判所檢事長ニ送致シ檢事長ヨリ願書ヲ差出シタル始審裁判

其願ヲ爲スヿヲ許ス

〔四百七十六〕復權ノ裁可狀ハ願人ニ下付ス可キ者ニ非サルヲ以テ之ヲ始審裁判所ニ藏置シ別ニ謄本二通ヲ作リ一通ヲ願人ニ下付シ一通ヲ前ニ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ送致ス

〔四百七十七〕特赦ハ復權ト同シク皇帝陛下ノ特恩ニ出ル者ニシテ犯人ノ狀情ニ因リ或ハ其刑ヲ全免シ或ハ減等スル者トス此請願ハ犯人自ラ之ヲ爲スヿヲ許サス司法卿檢察官及ヒ監獄長ノミ其申立ヲ爲スヿヲ得可シ

司法卿ニ於テ特赦ス可キ者ナラスト思料スルモ自ラ之ヲ決スルヿナク必ス上奏シテ勅裁ヲ仰ク可シ

所檢事ニ送致ス可シ

檢事ハ裁可狀ノ謄本ヲ願人ニ下付ス可シ

又刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ニ裁可狀ノ謄本ヲ送致シ其裁判所ニ於テハ之ヲ裁判言渡書ニ記入ス可シ

第三章　特赦

第四百七十七條　特赦ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ檢察官又ハ監獄長ヨリ犯人ノ情狀ヲ具シ司法卿ニ申立ルヿヲ得

監獄長ヨリ特赦ノ申立ヲ爲ス時ハ檢察官ヲ經由ス可シ但檢察官ハ意見書ヲ添フ可シ

特赦ノ申立アリタル時ハ司法卿ヨリ其書類

〔四百七十八〕特赦ノ申立アリト雖モ之カ爲メ刑ノ執行ヲ停止セス許否未タ知ル可カラサルヲ以テナリ然レモ死刑ニ至リテハ一旦之ヲ執行スレハ死者復タ活ス可カラス後ニ特赦アリト雖モ其果効ナカル可キニ因リ棄却又ハ裁可アルマテ執行ヲ見合セ置ク可シ

〔四百七十九〕一旦特赦ノ申立ヲ棄却セラルヽト雖モ後日犯人ノ情狀特赦ヲ要スル場合ニ至ル時ハ更ニ其申立ヲ爲スヿヲ得可キヤ言ヲ俟タス

〔四百八十〕特赦ノ裁可狀ヲ檢察官ニ送致シ該官ヨリ其謄本ヲ犯人ニ上付スル等ノ手續ハ復權ニ付キ定メタル所ト異ナルヿナシ

ニ意見書ヲ添ヘ上奏ス可シ

第四百七十八條　司法卿ハ刑ノ言渡確定シタル後何時ニテモ特赦ノ申立ヲ爲スヿヲ得

死刑ヲ除クノ外特赦ノ申立アリト雖モ刑ノ執行ヲ停止セス

第四百七十九條　特赦ノ申立棄却アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ其旨ヲ通知ス可シ

第四百八十條　特赦ノ裁可アリタル時ハ司法卿ヨリ刑ノ言渡ヲ爲シタル裁判所ノ檢察官ニ特赦狀ヲ送致ス可シ此場合ニ於テハ第四百七十六條ノ規則ニ從フ

刑法ノ部正誤

三丁九行一三ハ一二ノ誤

十丁二十一行ヿ得ハヿヲ得ノ誤

十六丁六行僞造變造ノ度量衡ノ八字衍

十六丁八行懲償ハ徵償ノ誤

三十三丁二十一行官ニ於テ犯罪アリト思料スルニ至ラントスル前ノ二十一字ヲ官ヨリ犯罪人ナリト思料セラルヽニ至ラントスル前ニ改ム

六十四丁九行庇護スレハハ庇護スルノ誤

九十四丁八行之ヲ沒收スルハ監視スルノ誤

百三十一丁十六行力劍ハ刀劍ノ誤

治罪法ノ部

五丁二行波アリトハ渡アリトノ誤

十六丁十三行其頌ハ其頒ノ誤

六十丁二十一行秩放ハ釋放ノ誤

七十八丁一行破壞ハ破壞ノ誤

百十九丁六行難カルハ憚カルノ誤

百二十七丁二十一行確誌ハ確證ノ誤

明治十三年九月二日

版權免許

解釋並出版人　東京神田區今川小路壹町目四番地　井田鐘次郎

同京橋區彌左工門町十五番地　時習社

發賣所　同神田區五軒町十八番地　弘令社

同　同日本橋區西河岸　須原鐵二

同　同芝區三島町　山中市兵衛

10-200

並

原

35
133

035853-000-4

35-133

刑法治罪法釈要

井田　鐘次郎／著

M13
BBP-0439